

# くらしの 情報館

ホームページアドレス  
http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/

☎=問い合わせ先  
内=内線番号

◇本庁舎 八幡小路7-1 ☎②1111/Fax⑦2577

◇表郷庁舎 表郷金山字長者久保2 ☎③2111/Fax③2234

◇大信庁舎 大信増見字北田58 ☎④2111/Fax④2409

◇東庁舎 東釜子字殿田表50 ☎④2111/Fax④3584

## 募集

### 白河まちなか逸品 めぐりツアー

各店のこだわり・お勧めの逸品を歩いて巡るツアーです。

- 日時 4月26日(土)／午前10時～午後2時
- 定員 16人 ※先着順
- 参加料 700円(昼食代込み)
- 申込期限 4月24日(木)まで
- ※コースは当日発表します。
- 申し込み・問い合わせ先 白河商工会議所 ☎③3101

### めぐり白河文化遺産めぐり

白河の文化遺産をめぐるスタンプリートツアーを開催します。

#### 《スタンプリート》

- 日時 4月19日(土)～27日(日)／午前10時～午後3時
- 内容 すべてのスタンプを集めた方に賞品をプレゼント(先着100人)

#### 《ツアー》

- 日時 4月19日(土)／午前9時～午後2時30分
- コース・定員 ▼写経・座禅体験 25人 ▼桜の名所と小峰城 50人 ※要予約
- 参加料 500円
- 申し込み・問い合わせ先 本庁舎まちづくり推進課 内2743

### ワークショップ参加者

市民会館では、高校生を対象に舞台の音響・照明等について学ぶワークショップを開催します。

- 対象 市内在住または市内の高校に通学している高校生で保護者の承諾が得られる方

- 期間 5月17日(土)～平成27年3月(月)1・2回程度)
- 参加料 1,000円(資料代)
- 申込期限 4月30日(水)まで
- ※詳しくはお問い合わせください。
- 申し込み・問い合わせ先 市民会館 ☎③3718

### 地域づくり活性化 支援事業補助金

市内の団体等が自発的に取り組む活動や事業の費用について、一部を助成します。

申し込みには、指定された書類の提出が必要です。詳しくはお問い合わせください。

- 申込期限 5月30日(金)まで
- 本庁舎地域支援課 内2256

## 案内

### 国保高齢受給者の 窓口負担割合

国民健康保険加入者で次に該当する方は、医療費の窓口負担が2割となります。対象

### 消防サイレン吹鳴

春季連合検閲のため、4月20日(日)午前7時に消防サイレンが流れます。火災と間違えのないようご注意ください。

- 本庁舎生活環境課 内2166

### 市の公共料金が変わります

4月1日からの消費税率引き上げに伴い、市の公共料金が変更となります。

#### 《変更となる主な公共料金の例》

- 水道料金
- 下水道料金
- 公民館、体育館、野球場などの施設使用料

※詳しくは担当課にお問い合わせください。

月の前月末までに「国民健康保険高齢受給者証」を郵送しますのでご確認ください。

- 対象者 4月2日以降に70歳の誕生日を迎える方(誕生日が昭和19年4月2日以降の方)
- 対象月 70歳の誕生月の翌月(ただし、各月1日が誕生日の方はその月)から
- ※一定以上の所得がある方はこれまでどおり3割負担です。
- 本庁舎国保年金課 内2173

### 翠楽苑 市民入園無料券



本券一枚でお一人様限り

#### 有効期間

平成26年4月14日(月)から  
平成26年4月20日(日)まで

### 翠楽苑 市民入園無料券



本券一枚でお一人様限り

#### 有効期間

平成26年4月14日(月)から  
平成26年4月20日(日)まで

### 翠楽苑 市民入園無料券



本券一枚でお一人様限り

#### 有効期間

平成26年4月14日(月)から  
平成26年4月20日(日)まで

### 翠楽苑 市民入園無料券



本券一枚でお一人様限り

#### 有効期間

平成26年4月14日(月)から  
平成26年4月20日(日)まで

### 翠楽苑 市民入園無料券



本券一枚でお一人様限り

#### 有効期間

平成26年4月14日(月)から  
平成26年4月20日(日)まで

### 白河斎場使用料の減免

市外の社会福祉施設に入所するため住所を移した方で、入所中に亡くなり、白河斎場を使用する場合、4月1日から減免申請をすることで、市民と同様に使用料が無料となります。詳しくはお問い合わせください。

●本庁舎生活環境課 内2164

### 国民年金保険料

4月から平成27年3月までの国民年金保険料は、月額1万5,250円です。日本年金機構から送られる納付書により、金融機関・郵便局・コンビニエンスストアで納付するか、事前申込による口座振替で納付してください。

保険料が未納の場合、将来の年金額が少なくなるだけでなく、障がい年金・遺族年金などが受け取れない場合があります。毎月の納期限(翌月末日)までに忘れずに納付しましょう。

納付が困難な場合は、免除

### 循環型社会の実現に向けて

#### 《3Rの推進》

家庭や職場など、様々な場面で身近に実践できる3R活動(リデュース=減量、リユース=再利用、リサイクル=再資源化)を推進しています。皆さんのご協力をお願いします。

#### 《3S広場(Shirakawa Second Shop)》

限りある資源の節約、不用品再生利用のため、3S広場をご利用ください。3S広場では一般家庭にある再利用可能な不用品情報を生活環境課に登録することで、希望する家庭に情報を提供します。

#### ■注意事項

- ▷登録料、紹介料は無料です(登録期間は3か月)。
- ▷現品は、市で預かることができません。当事者同士で確認、交渉してください。
- ▷取り引きに係る交渉や、品物についてのトラブルは、当事者間での解決をお願いします。
- ▷市内在住の方であれば登録できます。なお、営利を目的とする場合は登録できません。
- 本庁舎生活環境課 内2165/各庁舎地域振興課 表郷 ☎②2113 大信 ☎④3974 東 ☎④2113 974 東 ☎④2113

### 犬の登録と狂犬病 予防注射

生後91日以上の犬は、生涯1回の登録と年1回の狂犬病予防注射の接種が法律で定められています。必ず登録し、予防注射を受けてください。

なお、登録が済んでいる飼い主の方には、事前に「狂犬病予防注射申請書」を送付します。裏面が問診票になっていますので、注射を受ける際

・納付猶予制度(学生は学生納付特例制度)がありますのでご相談ください。

●本庁舎国保年金課 内2174/白河年金事務所 ☎⑦4161

に忘れずに持参してください。

- 実施日 ▼白河地域 4月19日(土)～24日(木) ▼表郷地域 5月13日(火)～14日(水) ▼大信地域 5月20日(火)～21日(水)
- ▼東地域 5月15日(木)～16日(金) ※会場ごとの時間などは、回覧文書または市ホームページでご確認ください。
- 費用 3,200円(注射料2,650円・注射済票550円)
- ※犬の登録を行う場合は、登録料3,000円が別途必要です。
- 本庁舎生活環境課 内2165/各庁舎地域振興課 表郷 ☎②2113 大信 ☎④3974 東 ☎④2113

《入園料》  
無料  
※呈茶を希望される方は入園時にお申し込みください。(呈茶料：540円)  
【開園時間】  
午前9時～午後4時30分  
☎翠楽苑 ☎236888  
(助白河観光物産協会)

《入園料》  
無料  
※呈茶を希望される方は入園時にお申し込みください。(呈茶料：540円)  
【開園時間】  
午前9時～午後4時30分  
☎翠楽苑 ☎236888  
(助白河観光物産協会)

《入園料》  
無料  
※呈茶を希望される方は入園時にお申し込みください。(呈茶料：540円)  
【開園時間】  
午前9時～午後4時30分  
☎翠楽苑 ☎236888  
(助白河観光物産協会)

《入園料》  
無料  
※呈茶を希望される方は入園時にお申し込みください。(呈茶料：540円)  
【開園時間】  
午前9時～午後4時30分  
☎翠楽苑 ☎236888  
(助白河観光物産協会)

《入園料》  
無料  
※呈茶を希望される方は入園時にお申し込みください。(呈茶料：540円)  
【開園時間】  
午前9時～午後4時30分  
☎翠楽苑 ☎236888  
(助白河観光物産協会)

# 案内

## 住宅用太陽光発電補助金

再生可能エネルギーである太陽光発電の普及を図るため、設置費用の一部を補助します。  
●補助金額 システムの出力1kw当たり2万円(上限8万円)  
●申請方法 太陽光発電システム導入促進事業補助金交付申請書に必要書類を添付し提出してください。  
※予算(140件程度)がなくなり次第終了します。  
●申し込み・問い合わせ先 本庁舎商工課 内2249

## 電気自動車急速充電器設置補助金

一般の方が利用可能な電気自動車急速充電器を設置する事業者等を対象に、設置費用の一部を補助します。  
●補助金額 設置費用から、国等の補助額を除いた額の2分の1以内(上限100万円) ※予算(2件程度)がなくなり次第終了します。  
●申し込み・問い合わせ先 本庁舎商工課 内2249

## 権太倉山山開きの中止

4月29日(祝)に開催を予定していた権太倉山の山開きは、コース内で落石などの恐れがあるため、開催を中止します。  
☎大信庁舎事業課 ☎3973

## 地域振興共通商品券

### 「小峰城復興白河藩券」

小峰城の復元、風評の払しょくおよび地域経済の活性化を図るため、プレミアム付き商品券を発行します。なお、還元金が出た場合は、一部を小峰城復元基金に寄付します。  
●販売日 4月23日(水)から(平日のみ)  
●販売所 白河商工会議所、表郷・大信・ひがし商工会  
●販売価格 1セット1万円(500円券が22枚、額面価格1万1,000円) ※1人5セットまで

## 住まいの復興給付金制度

東日本大震災により被害を受けた住宅の所有者が、消費税率引き上げ後に、居住する住宅の建築・購入・補修などを行った場合、申請することで、給付を受けることができます。詳しくはお問い合わせください。  
●対象 被災の認定を受けている方  
●受付時間 午前9時～午後5時  
☎住まいの復興給付金事務局 ☎0570-2001246

## 春の全国交通安全運動

4月6日(日)～15日(火)  
《運動のスローガン》  
事故のない 明るい未来は 君の手で  
《運動の基本》  
子どもと高齢者の交通事故防止  
《運動の重点》  
①自転車の安全利用の推進  
②すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底  
③飲酒運転の根絶  
☎本庁舎生活環境課 内2162

## まちかど伝言板

### 中心市街地活性化事業

#### ミニコンサート

《オペラ 久保田東穂》  
●日時 4月20日(日)／午後4時～5時  
●会場 えきかふえSHIRAKAWA(郭内)  
●入場料 無料  
☎福島県ミニコンサート実行委員会 遠藤 ☎090-1149617610



市長の手授え帖  
白河市長 鈴木 和夫

## 『日本初の専用高速線』

JRバス関東白河支店が、JR東日本総合研修センター近くに移転した。棚倉町にあった営業所もここに統合された。以前の事務所は、新市民会館予定地にあり、快く提供して頂いた。今後白河支店を拠点に、白棚線・市内循環バス・長距離バスを運行する。市もJRとの連携を強め、市民生活を守っていききたい。  
白棚線は長い歴史を持つ。もともと鉄道が走っていた敷地を舗装しバスに転換した。「国鉄自動車専用道白棚高速線」として開業したのは昭和32年4月。レールが撤去された13年後のこと。1月に着手し3か月余りで一挙に整備した。地元は鉄道復活を望んでいたが、国鉄は採算性は難しいと慎重。むしろローカル線の将来を見越し、バスへの切り替えを計画。白棚線はその先駆けとなった。住民も「汽車の走らない鉄道」より、実現しやすい「レールのない鉄道」を受け入れた。

白河・南湖・金山・棚倉24kmを40分で結ぶ。旧鉄道より15分短縮。より速く時間は正確。祭りや観光などの臨時輸送にも対応できる。また白棚線で名神や東名高速を走るメーカー試作バスの試験運転も行われた。昭和44年東名高速バスが開業するまで、白棚線が唯一の「高速」路線だった。もとより、今の高速道とは比べようもないが、国道でも砂利道があたり前の時代に、日本初の専用自動車道が走ったこ

とは、交通史上さながらと輝いている。

日本の近代化は鉄道の歴史でもあった。特に明治・大正における最大の公共事業は鉄道敷設。各地域の悲願で、今の新幹線や高速道路と同じように全国の請願競争となった。明治30年代には、常磐線と東北本線を水戸・棚倉・白河で結ぶという「白水線」構想があった。具体的になつたのが白河棚倉線。明治の末、中間の金山村にあった金鉱山や炭坑経営者、沿線有力者が精力的に動いた。幹線でないことから、私営の「軽便鉄道」だった。

大正2年6月に免許があり、翌3年6月、白河で白棚鉄道株式会社の設立総会が開かれた。ちょうど百年前のこと。東京・福島の実業家を中心に、地元有志らで株の35%を有したが、65%は沿線の1口株主。1株を数人で負担するなど庶民が貴重なお金を出しあった。用地も集落がまとまって地主と交渉、買い上げ、会社に寄附したとのこと。国からレールや機関車の払い下げを受け、大正5年10月営業開始。当時は第1次大戦の特需で好景気。会社も順調で5年後には、客数・貨物も倍増した。ところが終戦で一転して不景気。炭坑

の力も衰え、これに代わる物産もない。大正末には、鉄道に並走し乗合バスが進出し客を奪う。昭和9年には水郡線が開通し物流が変わる。昭和9年には水郡線が開通し悪化の一途。挽回の見通しが立たず、国に買い上げるよう請願。昭和16年国有化され、同19年には軍需資材に供するためレールが外された。大正から昭和へ、白棚鉄道は一定の役割を果たしたが、企業として存続するには市場が小さかった。しかし、国有化で廃線を免れたのは幸いだった。

「田舎のバスはオンボロ車でこぼこ道をガタゴト走る」と歌われた頃、高速バスがデビューした。希望と成長のシンボルだった。平らできれいな道を、颯爽と風を切り、水田・緑野の中をいく。木立や標柱が近づいては後方に流れ、車内からの眺めも良好。子供心にワクワクした。専用だから、人・自転車は通れない。分かっているが走ってみたい。誰かが、自転車でも南湖まで行ってみたいかと言う。互いに顔を見合わせ、うなずく。恐る恐るバスが来ないか前後を伺う。来ないのを確認し、猛然とペダルを踏む。砂利道とは異次元のスピードと滑らかさにウキウキ。「バスだ」の声に素早く斜面に愛車を倒し、頭を伏せる。ドキドキの思い出がなつかしい。

高校の頃は白棚線の全盛期。今では信じられないが、朝は通勤通学であふれかえっていた。急行バスもあった。私らの停車場はごく小さく、急行は止まらない。止まるはずのバスも「満杯です。次のにして下さい」と通過。なんと次のにもふられる。やっと乗ったものの時間が気になる。息をきらして学校へ着くと、すでに授業は始まっていた。「バスが遅れました」と頭を下げると、先生はじろりとにらむ。遠く矢祭・塙から通う生徒が涼しい顔で席についている。汗がタラリ…。

40年代半ばには、年間250万人もの利用者がいた。その後車社会になり、一般道も整備され客数は減少した。路線も289号の拡幅改良とともに、専用部が少なくなつた。だが、時が移り人が変わっても、白棚線は80年にわたり鉄道・バスとして継承されてきた。地域の宝を守り支えてこられた先人の努力に、心から敬意と感謝を申し上げたい。